

YAMANASHI DESIGN PROJECT

山梨が誇る技術と世界で活躍するデザイナーの競演
「硯」「貴石彫刻」「ニット」を用いた製品を2026年3月発表

デザイナー：深澤直人氏、柴田文江氏

参加企業：甲斐雨端硯本舗、貴石彫刻オオヨリ（TO LABO）、近藤ニット（evam eva）



「山梨デザインプロジェクト」は、山梨の歴史と風土が培った職人技と世界で活躍するデザイナーによる新たなプロダクトを創造するプロジェクトです。

山梨ならではの文化的価値や魅力を国内外に広く伝えることを目指し、今年度は「硯」「貴石彫刻」「ニット」に携わるものづくりの担い手3社とデザイナー2名（※）が9品を新たに開発しました。

山梨県が持つ、歴史、自然、技術を活かした“文化的テロワール”を基盤に、各社が受け継いできた確かな技術、固有の価値、魅力を、デザインので製品に昇華させました。深い自然に包まれた山梨の風土が培った職人技と、デザイナーによる新たなプロダクト開発にご期待ください。

※甲斐雨端硯本舗と貴石彫刻オオヨリ（TO LABO）が深澤直人氏と、近藤ニット（evam eva）が柴田文江氏と共に、新製品を開発しました。

※全国の小売店、山梨県内の小売店、各社のWebサイトや店舗にて順次展開予定。
山梨県ふるさと納税返礼品にも登録を予定しています。<https://www.pref.yamanashi.jp/furusato-tax/>

YAMANASHI DESIGN PROJECT

山梨県のプロジェクト「山梨県立美術館附属山梨デザインセンター連携 土産品高付加価値化支援事業」。訪日外国人、国内外のモダンラグジュアリー層に向けた取り組みとして、2024年度からスタートしました。初年度は「和紙」「水晶」「織物」に携わる県内事業者3社と、世界を舞台に活躍する日本人デザイナー3名が逸品を新たに開発し、今年2年目を迎えました。確かな技術力と土産品としての独自性、ブランド力を高め、上質な観光地としての認知向上、観光消費額の増加を図ることを目的としています。今年度は2名のデザイナーと県内の3事業者の取り組みで商品を開発しました。



本プロジェクト オーガナイザー

山梨県CDO 兼 山梨デザインセンター長 永井一史氏 コメント

山梨県には、豊かな自然とともに育まれてきた優れた技術や素材、そしてそれらを支えてきた職人たちの真摯な想いがあります。本プロジェクトでは、そうした地域に根ざした資源とデザイナーが交差する場をつくり出すことで、山梨ならではの「文化的テロワール（風土や歴史が生む固有の性格）」を体現するプロダクト開発に取り組みました。目指したのは、伝統産業の価値をいまの視点で問い直し、現代の暮らしと能動的につなぎ直す新たな関係を生み出すことです。これらの製品を通じて、山梨の産業が持つ可能性を具体的なカタチとして示し、次のものづくりやデザインの実践へとつながっていくことを願っています。

YAMANASHI TERROIR 山梨の文化的テロワール

テロワールとは、その土地だけに与えられた豊かな恵み。

そこでしか育まれない固有の価値。

深い自然に包まれた山梨の地には、他のどことも違う特別なテロワールが色濃く息づいています。

磨かれた水、澄みきった風。鮮やかな緑、降り注ぐ陽射し。

1000年以上前から京の技術を取り入れ、江戸などの消費地から離れているという不利を逆に、生き残る力としての付加価値にこだわった産品を生み出していく。培われてきた、地場産業の確かな技術力がデザイナーの創造力にこたえ、生み出される、まったく新しい一品。

一つ一つに注ぎこまれた挑戦が、想いが未来へ受け継がれていく。

これが、世界から注目される山梨の文化的テロワールです。

風土

山梨県は森林率が高く（約78%）、耕地面積が少ないため大規模な農業などは難しく、更に消費地（江戸）から見て険しい山々の先にあり流通的にも不便な場所でした。そのため、この土地ならではの産業の確立と付加価値をプラスする技術の追求が不可欠でした。このような様々な立地的ハンデを克服することがオリジナルな産品を生み出す原動力となったのです。一方で、金峰山一帯から産出する水晶、富士山を水源とする美しい湧き水（硬度の低い天然水）などの豊富な自然の恵みが山梨県の産業の発展に大きく寄与しています。

技術

平安時代から続く京都などとの交流の中で、絹や水晶などの産品を求め山梨県へたどり着いた職人の技術伝承から、県独自の技術が生まれました。そして、資源と製造が密接に関係している土地柄のため、様々な工程の技術者が集まり、密な連携を構築することで、製作の全工程を近隣だけで実現できる強みも持っています。集まった職人たちは互いに切磋琢磨して技術を磨き、伝統技術を守りながらそれぞれの時代に合わせた製品作りにチャレンジしているのです。

歴史

武田信玄の時代に御用紙として気に入られた和紙は、格調高い紙として保護されながら発展しました。また、奢侈禁止令が出された江戸時代にどうしてもお洒落を楽しみたい人々にとって、裏地に山梨県の甲斐絹を使うのが粋となる等、山梨県のような技術力は、人の心を動かす品物へと繋がりました。そのベースには、他県では手に入らない高い技術力と付加価値がありました。

甲州雨端硯

かいはめはたすずりほんぽ あめみや やへい

プロダクトデザイナー 深澤直人 x 甲斐雨端硯本舗 雨宮弥兵衛

元禄3年（1690年）より山梨県鯉沢地区で作り続けられてきた甲斐雨端硯。富士川支流の奥地、雨畑の河原にて黒一色の石を見つけ、それを硯にしたことがこの地域の硯づくりの始まりと伝えられています。後に将軍に献上したことでその名を広く知られ、時代を越え受け継がれてきました。定番のかたちとして長年愛されてきた日月硯と猿面硯をはじめ、墨・水滴・筆・和紙をそろえ、桐箱と手帳におさめた書を楽しむための一式です。

深澤直人氏 コメント

山梨県で300年以上にわたって作り続けられてきた甲斐雨端硯。その中でも定番のかたちとして長年愛されてきた日月硯と猿面硯を墨・水滴・筆・和紙とあわせて、桐の箱と手帳の中に収めました。

甲斐雨端硯本舗

<http://www.amehatasuzurihonpo.com/>



元禄3年（1690年）創業。かつて初代雨宮孫右衛門が、鯉沢の南にある日蓮宗総本山身延山への参詣途中に富士川支流の奥地 雨畑の河原にて黒一色の石を見つけ、それを硯にしたことがはじまりと伝えられています。後に将軍に献上したことでその名を広く知られ、時代を越え受け継がれてきました。代々硯の芸術性を追求し、13代目の硯匠である雨宮弥太郎氏は、硯を自身の心と向き合う「精神の器」と表現し、現代の造形としての可能性を追求しています。



甲斐雨端硯 硯一式 の桐箱



甲斐雨端硯 硯一式 猿面硯
(猿面硯、水滴、筆、墨、和紙)
予定価格 ¥88,000 (税込)



甲斐雨端硯 硯一式 日月硯
(日月硯、水滴、筆、墨、和紙)
予定価格 ¥66,000 (税込)



甲斐雨端硯 硯一式 携帯型のケース



甲斐雨端硯 硯一式 携帯型
(日月硯、水滴、筆、墨、和紙、下敷)
予定価格 ¥55,000 (税込)

【お客さまお問い合わせ先】 甲斐雨端硯本舗 TEL : 0556-27-0107

水晶貴石彫刻

おおより ともひこ

プロダクトデザイナー 深澤直人 x 貴石彫刻オオヨリ 大寄智彦

金峰山一帯を中心に、豊かな水晶資源を有する山梨。この地で最初に水晶が発見されたのは約1,100年前。江戸時代には京都から玉つくりの職人を招き、独自の研磨技術を開発しました。その技術を継承するとともにさまざまな宝石への応用も推進し、世界的にも稀有なジュエリーの集積産地となりました。ヌガーを思わせるような美しい指輪とネックレスは、ふたつの異なる石が立方体の中に組み込まれています。石を立体的に隙間なく合わせて磨き上げる高度な匠の技が活かされています。

深澤直人氏 コメント

ふたつの異なる石を立方体の中に組み込んだ、ヌガーを思わせるような美しい指輪とネックレスです。石を立体的に隙間なく合わせて磨き上げる匠の技がこのジュエリーを誕生させました。

貴石彫刻オオヨリ (TO LABO) www.tolabo.jp



100年以上続く伝統工芸 甲州水晶貴石細工の技術を祖父の代から3代に渡り受け継いでいます。創業は美術工芸品から始まり現在はジュエリーまで幅広く製作しています。3代目の大寄智彦氏は、甲州水晶貴石細工 伝統工芸士の国家資格および山梨県知事認定ジュエリーマスターを当時最年少で取得。山梨ジュエリーの技術の高さ、美しさを世界に発信しています。2013年に立ち上げた自社ジュエリーブランド「TO LABO(トゥラボ)」は、甲府市と東京 自由が丘に店舗を構えています。



nougat (ネックレス)
水晶× ホワイトカルセドニー、シルバー
¥121,000 (税込)



nougat (ネックレス)
水晶× ブラックアゲート、シルバー
¥121,000 (税込)



nougat (リング)
水晶× ホワイトカルセドニー、シルバー
¥121,000 (税込)



nougat (リング)
水晶× ブラックアゲート、シルバー
¥121,000 (税込)

【お客さまお問い合わせ先】 貴石彫刻オオヨリ TEL : 055-224-3762

ニット

プロダクトデザイナー 柴田文江 x 近藤ニット (evam eva)

山梨県市川三郷町は戦後、手動式横編機を取り入れニット産業の集積地として発展を遂げました。近藤ニットは上質な素材へのこだわりと自然豊かな風土をデザインソースに、丁寧なものづくりを行っています。今回デザインされたカシミアのシリーズはニットのつなぎ目がアクセントとして活きたボリュームのあるストールをはじめ、靴下、手袋、レッグウォーマーなど素材のやわらかな色彩の美しさや遊び心が感じられるラインアップです。

柴田文江氏 コメント

山梨の自然豊かな風土の中で育まれる静かで丁寧なものづくりの空気感がそのままプロダクトに宿るように感じ、カシミアの繊細な質感への真摯な向き合い方や、単なる製品を超えたブランドの美意識に深く心を動かされました。そこへ私なりのささやかな遊び心を添えることで、新しいラインナップが生まれたと感じています。たっぷりとしたボリュームのストールには、ニットのつなぎ目に現れる溜まりをアクセントとして活かしました。そのほかのアイテムには、カシミアならではのやわらかな色味の美しさを、切り返しによって優しくもどこか楽しい印象に仕上げています。

近藤ニット (evam eva)

<https://evameva.jp/>



創業80年以上の歴史をもつ近藤ニットが、2000年にスタートした自社ブランド「evam eva (エヴァム エヴァ)」。日常にあったらいいと思えるものを作り続けています。日々の暮らしを心地よく過ごすため、リネンやコットン、ウール、カシミアといった肌に心地よい天然素材、シンプルなデザイン、洗練されたシルエットなど、時代や流行が変わっても長く愛着を持てるものづくりを、企画から生産まで山梨県にある本社工場で、一貫して行っています。



vermilion x charcoal x light gray



light gray x yellow



khaki x light gray x vermilion

socks

vermilion x charcoal x light gray
light gray x yellow
khaki x light gray x vermilion
khaki x charcoal x brown

¥17,600 (税込)



light gray x khaki x vermilion



yellow x light gray



pale blue x brown

leg warmers

light gray x khaki x vermilion
yellow x light gray
pale blue x brown
khaki x charcoal x brown
charcoal x vermilion x light gray

¥19,800 (税込)



pale blue x brown



vermilion x charcoal x light gray



khaki x charcoal x brown

gloves

pale blue x brown
vermilion x charcoal x light gray
khaki x charcoal x brown
light gray x yellow
khaki x light gray x vermilion

¥19,800 (税込)



yellow x light gray



vermilion x gray

stole

yellow x light gray
vermilion x gray
pale blue x light gray
pale blue x brown
khaki x charcoal

¥60,500 (税込)

関係者紹介

デザイナー



深澤直人

山梨デザインセンター デザインディレクター

1956年、山梨県生まれ。デザイナーの個性を主張するのではなく、生活者の視点にたって人の想いを可視化する静かで力のあるデザインに定評があり、これまで数多くの世界を代表するブランドや、日本国内のリーディングカンパニーのデザインを手がけている。世界で最も影響力のあるデザイナーの一人である。「イサム・ノグチ賞」、「Collab Design Excellence Awards 2024」、「German Design Award 2026 – Personality of the Year」、「文化庁芸術選奨文部科学大臣賞」など受賞歴多数。多摩美術大学副学長。日本民藝館館長。



柴田文江

山梨デザインセンター デザインディレクター

山梨県出身。甲州織物を営む家庭に育つ。

エレクトロニクス商品から家具、医療機器、ホテルのトータルディレクションなど、国内外のメーカーとのプロジェクトを進行中。エル・デコインターナショナルデザインアワード照明部門グランプリ受賞、Red Dot Award Best of the Best、iF Design Award金賞、毎日デザイン賞、グッドデザイン賞金賞、などの受賞歴がある。多摩美術大学教授。著書『あるカタチの内側にある、もうひとつのカタチ』。

オーガナイザー



永井一史

本プロジェクト オーガナイザー / 山梨県CDO 兼 山梨デザインセンター長

様々な企業・行政の経営改革支援や、ブランディング、VI デザイン、プロジェクトデザインを手掛ける。毎日デザイン賞、ADC会員賞、クリエイター・オブ・ザ・イヤーなど受賞。2015年から東京都「東京ブランド」クリエイティブディレクター、多摩美術大学 教授、TCL エグゼクティブ・スーパーバイザー

株式会社 HAKUHODO DESIGN 代表取締役社長

山梨県立美術館附属山梨デザインセンター

2024年11月20日に県防災新館2階に開設された、新たな県のデザイン推進拠点。美術館附属としては日本初。CDO兼センター長にアートディレクター・永井一史、デザインディレクターにプロダクトデザイナー・深澤直人、柴田文江、実業家・林千晶が就任。本センターは「デザインの力で山梨をしなやかに美しく」を基本理念に「政策xデザイン」「地域xデザイン」「産業xデザイン」を柱に、デザインの力で地域活性化や社会課題の解決を図っていきます。更に、子供から社会人まで幅広くデザインを学ぶ機会を提供するとともに、クリエイターが作品を展示・発表する場、デザイナーやクリエイター同士が交流できる場などを提供し、新たな価値の創出を目指していきます。

関係者クレジット

オーガナイザー

永井一史（山梨県CDO 兼 山梨デザインセンター長）

デザイナー

深澤直人、柴田文江（山梨デザインセンター デザインディレクター）

参加企業

甲斐雨端硯本舗、貴石彫刻オオヨリ、近藤ニット (evam eva)

クリエイティブディレクション

岡本 健

ムービー

岡本憲昭

写真

近藤伍杏

プロジェクトマネジメント

古川真由子

PR

HOW INC.

【プレスに関するお問い合わせ先】 広報事務局 | 株式会社 ハウ

MAIL : pressrelease@how-pr.co.jp TEL : 03-5414-6405